

稲作だより

第14号 秋 耕 編

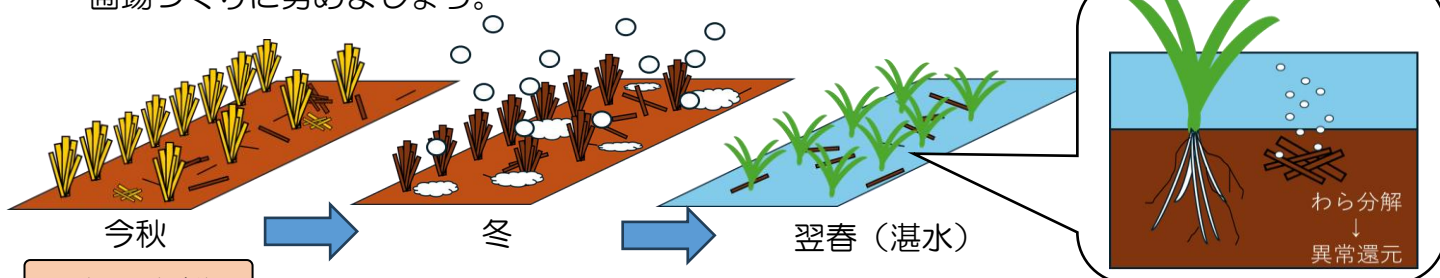
令和8年10月13日

やまがた温暖化対応米づくり日本一運動最上地域本部 最上総合支庁農業技術普及課 ☎0233-29-1330

おいしい米づくりは今秋から始まります。来年に向けて準備を進めましょう。

◎秋から始めるワキ対策 ～早めの対策で来年に備える～

- ・稲刈り後、圃場に散布された稲わらは翌年春までゆっくりと分解されます。分解されなかった稲わらが翌年に湛水状態で急激に分解されると、**土壌が異常還元状態（ワキ）**となり、根に障害が起こって**水稻の初期生育が抑制**されます。来年に向けた早めの対策でワキにくい圃場づくりに努めましょう。



秋の浅耕

- ・稲わらを土壌に浅く混和し、土壌微生物の働きにより稲わらの腐熟を促進します。**耕起の深さは5cm程度（右写真）**とします。排水不良田は春に圃場が乾かず作業に支障をきたす場合があるため避けましょう。



石灰窒素の秋散布

- ・圃場条件等により浅耕が難しい場合は、石灰窒素の秋施用で稲わらの腐熟を促進します。地力が標準の圃場の散布目安は「つや姫」「雪若丸」で**10kg/10a**、「はえぬき」で**20kg/10a**です。ただし、地力が高い圃場では、玄米粗タンパク質含有率の上昇による食味低下に繋がる恐れがあるため、**翌年の施肥は減肥**で対応しましょう。

平均気温 10℃以下では稲わらの腐熟が進みにくいため、10月下旬までに行いましょう！

アルカリ資材の散布

- ・水田土壌の pH は低下傾向にあります。土壌の pH を高めることで、土壌微生物活性が高まり、稲わらの腐熟は進みやすくなります。石灰窒素、ケイカル、ようりん等の散布により、土壌 pH の改善を図りましょう。

ワキ対策の効果

- ・ワキ対策（秋浅耕＋石灰窒素）を実施した区（写真左）は実施しない区（写真右）と比較して、根量が多く根毛も多いです。また、根の先端から基部にかけて白く健全な根が多いです。対策を実施することで根の生育が良好となり、分げつの発生に繋がります。例年ワキによる生育不良が見られる圃場は、今秋からの対策で来年の水稻の安定生産を図りましょう。



稲刈りも終盤です！農作業事故に注意しましょう！